

## 週報

## 感染性胃腸炎(腸管病原菌)検出

センター受託検査分より

検出菌ウイルス	平成30年												平成31年															
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月 ~6日	1月 ~13日	1月 ~20日	1月 ~27日	2月 ~3日	2月 ~10日	2月 ~17日	2月 ~24日	3月 ~3日	3月 ~10日	3月 ~17日	3月 ~24日	3月 ~31日	4月 ~7日	4月 ~14日	4月 ~21日
カンピロバクター	37	39	48	105	75	71	122	98	160	113	109	109	5	18	21	12	12	12	15	7	22	17	14	23	22	17	0 (21)	0
病原性大腸菌	66	51	44	98	78	83	111	80	73	69	119	157	11	30	27	17	23	24	20	14	14	10	14	16	23	19	12 (13)	19
腸管出血性大腸菌	0	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サルモネラ	3	1	1	5	3	20	12	22	13	9	5	13	0	3	2	0	0	0	2	1	0	4	4	2	1	0	1	1
黄色ブドウ球菌 MSSA	14	11	7	24	10	10	16	26	20	17	22	19	2	4	3	1	3	3	0	3	3	3	4	0	2	3	5	3
黄色ブドウ球菌 MRSA	12	11	13	12	12	17	14	11	18	7	18	22	3	7	6	6	4	5	2	5	6	1	4	4	7	3	6	3
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	7	5	3	1	2	4	2	2	1	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
ロタウイルス	2	11	18	50	10	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	2	1	0	0	1	0	0	1	0	0	4	4
アデノウイルス	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
ノロウイルス	13	13	17	4	4	2	3	0	0	0	6	23	5	9	7	2	4	8	6	5	0	3	3	3	2	2	3	2

\* ( ) は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

## 広島県感染症発生動向週報

平成31年第16週(4月15日~4月21日)

### 2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	7	結核	7			3		2	2	
三類	0	発生なし	0							
四類	0	発生なし	0							
五類全数	24	アメーバ赤痢	2			2				
		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1		1					
		クロイツフェルト・ヤコブ病	1					1		
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	1				1		
		後天性免疫不全症候群	1					1		
		侵襲性肺炎球菌感染症	3					3		
		梅毒	2					1		1
		百日咳	10	1	1			3	1	4
風しん	2		1			1				

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市 西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町  
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町 北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

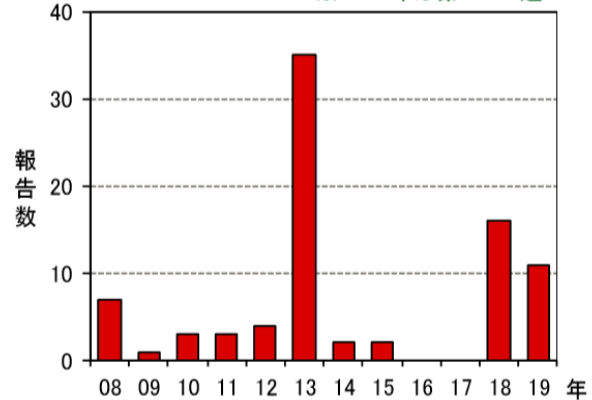
広島県感染症情報センター 提供

定点・全数把握疾患週報【広島市】(第16週 4/15~4/21)

広島市感染症対策協議会/広島市感染症情報センター 提供

風しんの年間報告数の推移

※2019年は第1~16週



1. 風しん

1件の報告があり、今年の累計は11件となりました。

風しんは感染者の飛まつ(唾液のしぶき)などによって他の人にうつる、感染力の強い感染症です。妊娠初期の女性が風しんウイルスに感染すると、赤ちゃんが先天性風しん症候群(難聴、白内障、心疾患等)を発症する可能性があるため、特に注意が必要です。

風しんの感染拡大を防止するためには、これまで風しんの定期接種を受ける機会のなかった世代の成人男性の抗体保有率を上げる必要があります。

2. 後天性免疫不全症候群

1件の報告があり、今年の累計は4件となりました。

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号
フィルン	インフルエンザ	40	1.11	1.91			小児科	流行性耳下腺炎	-	-	0.49		
小児科	咽頭結膜熱	7	0.30	0.47			眼科	RSウイルス感染症	15	0.65	0.13		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	53	2.30	2.82			眼科	急性出血性結膜炎	-	-	0.03		
	感染性胃腸炎	138	6.00	9.34			眼科	流行性角結膜炎	3	0.38	0.75		
	水痘	3	0.13	0.46			基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-		
	手足口病	4	0.17	0.77			基幹	無菌性髄膜炎	-	-	-		
	伝染性紅斑	8	0.35	0.24			基幹	マイコプラズマ肺炎	1	0.14	0.06		
	突発性発しん	11	0.48	0.43			基幹	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-		
	ヘルパンギーナ	-	-	0.16			基幹	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	7	1.00	1.26		

急増減 ↑ ↓ 前週と比較しておおむね1:2以上の増減

増減 ↗ ↘ 前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減

微増減 ↖ ↕ 前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減

横ばい ⇄ ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	36
小児科定点数	23
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■ 全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	2	53	女性(70歳代)、男性(80歳代)
5	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	2	女性(70歳代)
5	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	3	女性(90歳代)
5	後天性免疫不全症候群	1	4	男性(20歳代)・感染者
5	侵襲性肺炎球菌感染症	3	13	男性(70歳代)・2人、女性(70歳代)・1人
5	梅毒	1	22	女性(20歳代)
5	百日咳	3	20	女性(10歳未満)、女性(10歳代)、女性(80歳代)
5	風しん	1	11	男性(50歳代)

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
インフルエンザ	発熱(38.6) 上気道炎 頭痛 鼻炎 関節痛	31 男	2019/03/15	鼻汁	インフルエンザウイルスA(H3)型
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	発熱(38.6) 咽頭炎	8 女	2019/03/12	咽頭拭い液	A群溶血性レンサ球菌T1型
感染性胃腸炎	発熱(38.0) 嘔吐下痢 腹痛	3 女	2019/03/02	糞便	A群ロタウイルス
ヘルパンギーナ	発熱(38.6) 咽頭炎 鼻炎	0 男	2019/03/06	咽頭拭い液	パレコウイルス3型 ライノウイルス
その他の呼吸器疾患	発熱(39.2) 下気道炎	4 女	2019/03/13	鼻汁	RSウイルス
その他の発疹性疾患	発熱(39.2) 網状皮斑	0 女	2019/03/07	咽頭拭い液 尿	パレコウイルス3型

\* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載